

リサイクルプラザ藤沢の火災対応に係る進捗状況等について

9 月 4 日に発生したリサイクルプラザ藤沢廃棄物処理棟の火災に伴い、稼働が停止している不燃ごみ・大型ごみの破碎処理施設や、ペットボトル等の資源化施設の復旧に向けた進捗状況等について報告するものです。

1 火災の概要

- (1) 出火場所 大型可燃ごみ受入ヤード内
- (2) 出火原因 大型可燃ごみに混入していた、リチウムイオン電池内蔵製品等から、何らかの原因で出火し、火災に至ったものと推定
- (3) 施設への影響 電源喪失による施設の機能停止、建物本体の一部焼損

2 継続して停止している業務

- (1) 市民が持ち込むごみの受入れ
- (2) 環境啓発棟業務
- (3) E V 急速充電器の利用

3 火災発生以降の資源物等の処理状況

運営事業者と早期復旧に向けた協議を行いながら、市民生活への影響を最小限にすることを最優先に、火災によって処理ができなくなった資源物・不燃ごみ・大型ごみの対応方法を検討し、取り組んできました。

(1) 資源物の処理

プラスチック製容器包装の一部を焼却処理しているなど、通常とは処理方法が異なりますが、藤沢市資源循環協同組合ほか事業者の協力の下、継続して資源化処理を行っています。

(2) 不燃ごみ・大型ごみの処理

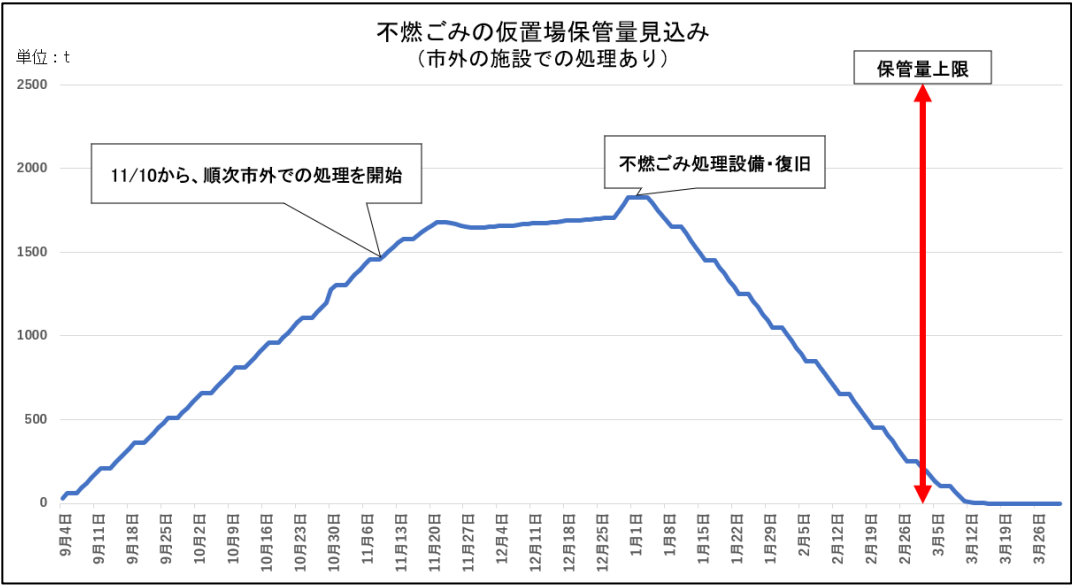
火災発生後、直ちに葛原最終処分場跡地に仮置場を設置し、収集した不燃ごみ・大型ごみの受入を継続しています。並行して、県内の 7 市 1 一部事務組合に対して、受入の協議を行うとともに、神奈川県に受入先の調整等の支援を要請してきました。

結果、大型ごみについては、10 月 6 日から茅ヶ崎市での受入が可能となり、大型可燃ごみ及び布団を搬出し、処理を行っています。一方、不燃ごみについては、分別基準が異なるなどの理由から受入の調整に時間を要しましたが、11 月 10 日以降は、秦野市伊勢原市環境衛生組合のほか自治体・民間事業者での受入が可能と

なったことから順次処理を進めており、仮置場における不燃ごみの保管量の増加は抑えられています。

4 仮置場の状況と不燃ごみの保管量

仮置場の状況と不燃ごみの保管量については、火災発生以降右肩上がりが増えていますが、市外での処理開始後は増加が抑えられています。継続して市外での処理を進めることによって、仮置場の延命化を図るとともに、不燃ごみ処理設備の復旧後においては、施設での処理と市外での処理を並行して実施することで、3月中旬までに不燃ごみの保管量ゼロを目指しています。



5 処理機能の復旧・外部搬出スケジュール

運営事業者から報告を受けている、不燃ごみ等の処理機能の復旧スケジュール等は次のとおりです。なお、建物本体に係る復旧時期については、現在実施している調査結果により年明けにはスケジュールが示される予定です。(★：復旧)

区分		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
処理機能	不燃ごみ・復旧				★					
	資源物・復旧						★			
	大型ごみ・復旧									★
建物	建物本体に係る復旧	調査中				――	――	――	――	――
その他	市外の施設での処理									

6 処理機能の復旧等に要する経費について

市外の施設において不燃ごみ・大型ごみを処理する経費及び処理機能の復旧に係る経費は次のとおりです。

なお、これらの経費には、建物本体の復旧費用等が含まれていないため、今後別途経費が必要となります。

(1) 外部搬出経費（茅ヶ崎市分。10月～12月） 14,342 千円（現計予算）

(2) 外部搬出・仮置場に係る経費（3月分まで） 398,513 千円（専決処分）

(内訳)	外部搬出経費	351,077 千円
	・自治体	33,977 千円
	・民間事業者	317,100 千円
	仮置場運営経費	47,436 千円

(3) 処理機能の復旧に係る経費 989,020 千円（12月補正予算）

(内訳)	調査・仮設費	282,532 千円
	不燃ごみ復旧費	330,000 千円
	資源物復旧費	160,600 千円
	大型ごみ復旧費	135,340 千円
	諸経費	80,548 千円

7 市民に向けた情報提供について

施設の復旧状況や停止している業務の再開時期等については、随時ホームページやLINE、ごみ分別アプリなどを活用し、引き続き市民への周知を行っていきます。

加えて、今回の火災を踏まえ、リチウムイオン電池の処分方法や取り扱いを誤った場合の危険性などの周知も行っていきます。

以 上

（事務担当 環境部 環境施設課 北部環境事業所）